

結 果 報 告

大会名	平成26年度第66回全日本総合ハンドボール選手権大会				
競技日	12月25日(木)	試合番号	2-4	回戦	2回戦
種別	男子・女子	会場	枇杷島SC・愛知県体育館		
Aチーム			Bチーム		
トヨタ紡織九州レッドトルネード			大阪体育大学		
得点合計	小計		小計	得点合計	
28	13	前半	15	25	
	15	後半	10		
		第1延長(前半)			
		第1延長(後半)			
		第2延長(前半)			
		第2延長(後半)			
		7mTC			

【 戦 評 】

記載者氏名 堀 卓行

トヨタ紡織九州のスローオフで試合がスタート。トヨタ紡織九州が3番田中のロングシュートで先制するも、ゲーム序盤、試合の流れをつかんだのは大阪体育大学。3番酒井、2番宮本の得点ですぐさま逆転。その後も5番柴山の個人技などで得点を重ね、前半19分で9-7と大体大の2点リードとなる。流れを変えたいトヨタ紡織九州は10番海道を投入。速いパス回しからのサイドシュート、10番海道を中心とした速攻などで前半23分に11-11の同点に追いつく。このままトヨタ紡織九州に流れが傾くかと思われたが、大体大は7番伊藤、5番柴山のミドルシュートで再度リードを奪い、15-13の大体大の2点リードで前半を折り返す。

後半、トヨタ紡織九州のDFラインが上がり積極的なディフェンスを展開。これにより流れをつかんだトヨタ紡織九州は後半スタートから3分で4連取し、17-15と逆転する。ここで大体大はたまらずタイムアウト。ここからはお互い退場者が出ながらも一進一退の攻防を繰り広げ、後半16分を過ぎたところで21-21の同点と緊迫した試合展開となる。トヨタ紡織九州は13番柳の連続得点で23-21と頭ひとつ抜け出す。大体大も5番柴山を中心としたオフェンスで食い下がるもなかなか追いつくことができない。ラスト1分27-24と3点ビハインドの大体大がオールコートマンツーマンをしかけるもトヨタ紡織九州のゴールキーパー12番岩下が飛びだし得点する。この得点で勝負が決まり、28-25でトヨタ紡織九州がベスト8進出を決めた。